



## それなりに泳げます

パチンコで70万円負けた後、たまたまテレビでピアノ演奏を観て「この曲を弾きたい」という衝動にかられた佐賀市のノリ漁師がいます。ピアノを弾き始めたのが52歳。1日数時間、時には12時間にも及ぶ練習を続けて、7年後にはテレビの特集で取り上げられるまでに上達しました。プロでも難しいとされるフランツ・リストの「ラ・カンパネラ」という曲を独学で習得したのです。その秘訣の1つはパチンコだそうです。朝9時から夕方6時まで、毎日パチンコ台の前に座っていたので、ピアノの前に長時間座り続けるのには慣れていて、というのです。人生、何が功を奏するか分からないものです。

鉄棒が好きで毎日逆上がりの練習を頑張った結果、体幹が鍛えられて、学習に向かう姿勢や集中力の持続時間が延び、学力も伸びたという例もあります。昆虫好きの生徒に昆虫に関する海外の最新の論文を与えると、英語力が向上した（「ドラ〇〇桜」）、得意の踊りを披露したら、気になっていた顔のコブを取ってもらえた（「〇〇とり爺さん」）、ダイエットのために犬と散歩を始めたら、主人を引っ張り続けた犬（だけ）が痩せた（ある情報筋）など。苦手なことに着目して「これを克服しなければ」と思う人もいれば、「得意なことをもっと伸ばそう」と考える人もいます。どちらも大切ですが、気持ち的には得意なことの方がヤル気は出ますよね。そして、得意なことをさらに頑張った結果、自然と苦手なことも伸びていったということもよくあることです。意欲と個に応じた環境があれば、子どもはどんどん成長します。

6月からプールでの学習が始まります。現在は、小中学校で飛び込みは教えないことになっていますが、それ以前にも飛び込みの危険性は指摘されていました。当時、水泳の記録会で飛び込みスタートを一律に禁止する案が出た時、ある先輩の先生が「できる子まで禁止にするのは、学習の機会を奪うことだ」とおっしゃっていました。できない子に対して様々な支援を講じて、できるようにすることはいろんな場面で行っていますが、できる子に対してもっとできるようにするという発想は、これまであまりなかったように思います。2030年度にも導入される次期学習指導要領に、特定の分野で突出した才能を持つ小中学生は、クラスを離れて高校や大学で授業を受けられるようにする特例を盛り込むという案を文部科学省が示しました。勉強が分からずに付いていけなくて困っている子がいるのと同様に、授業のレベルが合わずに苦痛を感じている子もいるのです。

加古川市は令和5年度からプールの授業を民間委託するようになり、少しずつ実施校を増やしてきました。先行実施した学校の児童にアンケートをとったところ、民間委託して良かった点として「自分のレベルに合わせた練習ができた」と回答した件数が最も多かったようです。学校でプールの授業をしていた時も、泳力別にグループ分けをして学習することはありましたが、やはり「餅は餅屋」ということでしょうか。

昔、カメラフィルムのCMで「美しい方はより美しく、そうでない方はそれなりに写ります」というのがありましたが、速く泳げる人はより速く、（以下省略）。

今年はバタフライに  
挑戦しようかなあ…



平泳ぐ カエルもいつかは 蝶になる？

（校長 河合 康一）